

シリーズ 人権

第83回

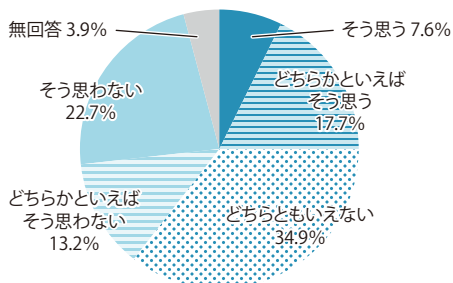
市民意識調査を受けて Vol.1



あなたは、今でも部落差別はありますか？

平成29年8月に津市が実施した「人権問題に関する市民意識調査」によると、ほぼ半数の人が「今でも部落差別はある」と回答しました。また、「部落差別は、いけないことだが私とは関係のない話だ」「同和問題には、かかわらないほうがよい」「そっとしておけば、部落差別は自然になくなっていく」と答えた人が2～3割程度、「どちらともいえない」と答えた人も3～4割程度いました。

設問 部落差別は、いけないことだが私とは関係のない話だ
(人権問題に関する市民意識調査より)



皆さんは、この結果をどう思いますか。自分のことではないからといって、差別に無関心であることや、そのうち差別はなくなるだろうと、何もしないでいることは、全ての人が安心して暮らせる社会といえるでしょうか。

近年では、インターネットの普及が進み、短時間に多くの情報が得られるようになってきました。その一方で、インターネット上の差別的な書き込みが新たな問題となっています。

平成28年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」では、現在も部落差別が存在し、部落差別は決して許されず解消すべき重要な課題であるとしています。差別は偏見や誤った認識から生まれるもので

す。差別について正しく理解していない人が、誤った情報を事実として受け止めてしまえば、そこから新たな差別が生まれ、結果として差別の助長にもつながっていきます。偏見や誤った考えが伝えられて、差別が繰り返されてきた差別の連鎖。それを断ち切ることが、今を生きる私たちに求められていることではないでしょうか。

それにはまず、私たち一人一人が、自分の人権と同じように他の人の人権も尊重し、誰もが自分らしく生きることのできる社会をめざして、「差別をしない」から「差別をなくす」という意識が社会全体に広がらなければなりません。

前述の調査結果によると、半数以上の方が「同和問題に対する啓発、教育が必要である」と感じています。津市では、人権啓発・人権尊重の取り組みの一つとして、毎年、市内各地域で人権講演会や市民人権講座などを開催しています。こうした講演会や研修会などへの参加を通して、多様な考え方に気付きながら、人権について理解を深めてもらえればと思います。

私たち一人一人が、かけがえのない存在です。生まれた場所や住んでいる場所を理由に人を差別したり、不当な扱いを受けるようなことはあってはなりません。誰もが明るく幸せに活躍できる差別のない社会にしていきたいと思います。

(執筆担当：人権課)

部落差別とは…

同和問題ともいわれ、特定の地域出身であることやそこに住んでいることなどを理由に差別を受けるといった重大な人権問題